新宿区民会議第一部会「環境」グループ提案プロジェクト

2005・10・20

宇野隆之、木村茂直、宮内篤志、森田千史

タイトル

「持続可能社会」に向けての「子育て・教育」及び、地縁型コミュニティー形成、伝統文化の伝承、ユビキタスネットワーク社会実現の為のプロジェクト。

プロジェクトの要約

１．**新宿区基本構想**、**グランドデザイン**でも述べている――「**持続可能社会**」――を社会ビジョンとして明確に掲げ、それを実現し担う人材を育てるということを、次世代**子育て教育の方向性、目的**とする

２．**続可持能な社会・街づくり**――に子供達を地域住民とともに参加させることにより、**社会帰属意識**を芽生えさせながら、その活動を通じて、自然と共存する**伝統文化,技術**の優れたものを伝承すると共に、**生きる力、問題解決能力**、**豊な感性**をみにつけさす。

３．その活動の拠点として各地域にある**公園**を有効利用する。各地域の公園を血の通った、美しい快適な空間に作り変えることにより、(「**茶屋**」,環境整備）地域に**美しい景観**が現れ、人々の交流が生まれ、さらに**地域の連帯感**が強まり,新たな街づくりの可能性が期待される。

４．**高い文化水準**を維持し、エコロジー、リサイクル都市であった「**江戸**」からヒントを得、日本の歴史、伝統文化、技術、習慣などを再評価して、街づくりの**基本コンセプト**をたてる

５．インターネット上に**ユビキタスシームレスコミュニケーションプラットフォーム**（**何時でも何処でも誰でも可能で、情報障壁のないネットワーク**）を構築し、町づくりの活動やプランニングを**データーベース**化するとともに、街づくりメンバーのネットワークを広げる。「**ユビキタスネットワーク社会**の実現を目指す、(**総務省U―ジャパン構想に適合**)」

一　課　題

次世代育成には未来社会に対する明確な**ビジョン**が必要である。

社会の望ましい未来像、方向性、次世代人間像

次世代の子供達に対する子育て、教育を考えるにあたり先ず最初に、彼等にどんな人間に育ってもらいたいかを、明確に考える必要がある。

その答えを出す為にはさらに次世代が担うこれからの社会（地球）がどのような社会になるのが望ましいのかをよく考え、その姿をイメージしなければならない。地球を取り巻く**環境問題**が深刻化した今日、誰もが未来社会について真剣に考えることはとても重要な事である。

未来社会について人々の統一した理想像がイメージできて初めて、次世代に対し期待する人間像も明確となり、おのずと彼等に対しての子育て・教育の方針も明確に定まってくるのではないだろうか。

個人のみならず、地域社会、国家に至るまで**理想の未来像**――を描きにくくなった今日、自分たちにとって本当に大切な物は何なのかを、真剣に考える事によってのみ、未来社会の理想像を明らかにすることが出来る。

このような手順を踏んで、個人のみならず地域社会・国家が未来社会についての方向性を明確にしてこそ、次世代に対しての**子育て・教育のビジョン**が生まれ、人々に対する説得力と人々の共感がえられるのではないか。

地球を取り巻く環境が悪化の一途をたどり、人類が**資源と環境を食いつぶしながら**、**滅亡のふちに**確実に進んでいる現在、なんと言おうと――「**持続可能社会**」の実現――を**未来社会ビジョン**として目指すしかない。そしてそのビジョンを如何に人々に広めるか、「**持続可能社会**」実現のために貢献し、それを担うべき次世代をいかに育て、教育していくか―――がこの**提案プロジェクト**の**課題**である。

二　現状分析

伝統文化軽視、アイデンティティ、ビジョン欠落社会により多くの問題が発生

１．ビジョンなき社会に住む不安、

日本はかつて――「**欧米並みの豊かさ**」――を社会的ビジョンとして持っていたが、ある程度の経済的豊かさを獲得した現在、それに変わる明確な社会的ビジョンがないように思える。オウムのような集団以外、誰もあまりそれについて語らない。目標、**ビジョンのない社会**に住むということは、行き先のない船に乗っているようなものである。ただ落ちないように争いながら船にしがみついているだけ、自分がどこからきたのか、自分がどこへ行くにのか、周りの者が何を考えているのか全く分からない、とても不安な状態である。

２．しらけた子供

社会、国が明確なビジョンを持たないことを反映してか、個人レベルでも**将来ビジョン**、**人生の目的**について語る人も少ない。子供達にそれを尋ねても生き生きした答えが返ってこない。なぜかしらけている。一時代前の子供はそうではなかったようにおもえる。管理社会が悪いのか教育がいけないのか**バーチャルリアリティー**（テレビ、コンピューターゲーム）に毒されているのか、とにかく前向きでない子供が多く由々しき状態である。
又毎日惰性でいきている感じで、明らかに**実体験（仲間との外遊び）**が少なく**生きる力**が低下している。思考も浅い。その反面やたらと**目立ちたがる**子供が多いい。目立つための手段は問わないらしい。子供達が**人生の目的、アイデンティティ**を持たない事の反動からか。

３．アイデンティティのない社会に済む不気味さ

アメリカ文明への**同調と追従**によって戦後日本は経済繁栄を享受した。しかしその代償として大きな重要なものを失った。――**精神や美意識、景観や倫理観**――などである。日本には本来、**自然と共存する**優れた**伝統文化、技術**が存在した。それらの多くが戦後のみならず明治維新後の**欧米追従政策**でどんどん消え去って来たのではないだろうか。

今でもヨーロッパの都市、アジアの都市を見れば、多くの都市がその国の**雰囲気、伝統、歴史**をかもし出している。要するに其の国の雰囲気が感じられる。それにひきかえ、現在の日本の都市といえば日本の伝統、歴史をうかがわせる**日本らしさ**―と言うものはほとんど感じられない。又少し残っている物もどんどん消滅している。全く**アイデンティティが感じられない都市**としかいいようがない。**町並みも美しくなく、雰囲気がない**。地方都市、農村でも多かれ少なかれ同じ事がいえる**アイデンティティのない都市、社会**に暮らすという事は、性能や大きさ等全くわからない船に乗せられ、あら海を航海しているようなもので、とっても不気味な事である。

４．アイデンティティを持たない日本人

そんな**アイデンティティのない国・社会**に住む日本人は、個人としてのアイデンティティをもつことも困難である。いくら欧米人のように生活していても顔が違うので欧米人にはなれない。一般の日本人は外国にいってもなぜか影が薄い。いままで何とか自慢できたのは自分に関係のない日本製電気製品ぐらいである。

しかしよく考えてみると、日本人の**考え方、生活様式、文化、社会、人間関係**の中にまだまだ日本人の**伝統や精神**その他、日本人的なものが残っておりそれらにかろうじて支えられながら、我々は生きている事に気づく。ただ人々特に若い世代はそのことを意識せず、日本の精神、伝統文化などに対し、**封建的臭い**を感じ、単に**古臭い物**として片付け、進歩や国際化の邪魔になる物としてしかとらえていない。

そのことは、日本の**伝統文化、技術、精神、倫理観、美意識**が、一体どんな物なのか若者の間で正しく理解されていないことから起こっていとも思える。今、学校教育、家庭、地域社会その他においても正しくそれらを次世代に伝えていくことをしていない。従ってますますそれらは忘れ去られ、失われていく結果となる。

日本の伝統文化、技術、精神の中には生きていくうえでとても役に立つもの、――**自然と共存する優れた技術、美意識**、良い人間関係を保つ為の**精神や倫理観**――など、今後の未来社会に役立つ優れた物が数多いい。たとえば**稲作文化、森林文化、漁労文化、食文化、伝統工芸、伝統芸能、武道、バイオ技術、医療技術祭り、風習、習慣**――などなどである。

それらは長い歴史の中で人々が知恵を出し試行錯誤を重ね育んできたものであり、まさに我々が**先祖から受け継いだ貴重な財産**であるといえる。

それを邪魔な物と簡単に捨て去るのでなく、日本社会の**アイデンティティのバックボーン**として位置付け、それを土台に新たな文化を築いていく事こそが未来に向かっての正しい方向性ではないか。

個人のレベルでアイデンティティを形成しようとする場合でも、やはり日本の伝統文化、精神をバックボーンにすえた上で、それに個性を付加していくやり方のほうが、**自分が何者なのか―**

―分かりやすい筈である。外国に出て行く場合には特に、日本人としてのアイデンティティを持っていなければ相手にされない。

５．次世代に、伝えたいものを持たない親や社会――迫力のない教育、子育て

現在、子育て教育の場面で上記ようなことは全く意識されず忘れ去られているように思われる。育てる側、教える側がそもそも自分が**何者なのか**――よく分かっていないのではないか。さらに次世代に、ぜひとも**此れを伝えたい、此れこそ教えたい**、そういうものを人々が持っていない社会のように見える。だから教育、子育てに**自信や迫力**が感じられない。なんとなく**惰性**で行われている。育てられる側、教えられる側もそれなりにしか受け止めない。かくしておざなりの教育子育てで終わってしまう。**社会も惰性**で進んでいく。

６．少子化――、人生の意義、意味

次世代にぜひとも**伝えたい物、残したい物、**そんな考えを全く持たないため**結婚**、**子作り**に意義を感じず、それらを**人生の目的**の一つに据えない人々が増えている。人生を**一代限りの物**と割り切っている。これも**少子化**の原因のひとつかもしれない。

少子化はいろんな意味で考えれば、かならずしも悪い事ではない。ただ言えることは、少子化でさらに貴重になった次世代の子供達を丁寧に育て教育し、未来社会を担う事が出来る人間に育て上げることがますます重要になってきたと言うことである。その為にも、我々が**前の世代から受け継いだ貴重な文化,技術、その他を正しく継承し、**さらに発展させて次世代につたえて行くこと――が**今の世代の使命**であると自覚しなければならない。此のことこそが、個々の人生目的の中で、大きな部分を占めるのだ――と子供達に教える必要がある。

現在、自分なりの**人生の意儀、目的**を言える人は少ない。考えることすらしない人がほとんどである。そんな前向きでない社会は問題である。先が見えず皆なんとなく不安を抱いている。子供は社会の鏡であると言われるように、それがそのまま子供達に反映され、社会問題化される様な**青少年による数々の事件**が起きている。

三　目指すべき姿

１．**人生の意義、意味**を教える教育や子育て――が重要。

次世代の教育子育てをするにあたり、根本的なことをつかんでおかなければならない。すなわち人生には意味や意義があること、従って目的をもって生きなければならない事――などを色々な場面で教えていく必要がある。そのためには、過去の様々な人々の力や努力により**文化や技術、芸術**が生まれ――その**恩恵**を受けることにより我々や我々の社会が成り立っていること――それらを財産として受け止め、未来社会に役立つよう発展させて次世代につたえなければならないこと――を子供達に理解さなければならない。そして、何らかの形で**社会作り**に参加し貢献する人生――のほうがより意義が大きいことを子供達に分からせたい。

２．子供を**社会づくり、街づくり**に参加させ、未来社会を担う自覚をもたせる。

一方未来に向けての**社会的ビジョン、目指す姿、イメージ**などを子供達に常に伝え、ともに考えさせることも重要である。同時に子供のうちから何らかの形で**地域づくり、社会作り**の活動に参加させることにより、社会の一員であるとの自覚がめばえ、さらに自分達が未来社会を担うのだと言う実感をもつようになる筈である。

３．伝統文化をバックボーンに据え**アイデンティティを形成**し、世界に向けての発信する

欧米追従の経済至上主義により失われてしまった、日本の伝統文化に基づく**精神や美意識、景観や倫理観**――をもう一度見直し再評価して、これからの日本の社会や都市のアイデンティティのバックボーンとして位置づけなければならない。そして、子供達に　**伝統文化、技術、芸術等――**の優れたものを色々な局面で正確に体験させなければならない。それらの体験や学習あるいは修行を通じ,自分の人生の**成り立ち、拠り所、ルーツ**というものを認識した上で、更に**その他の実体験や学習**もあわせる事により子供達は独自に**個人的なアイデンティティ**を形成していく。このことにより、彼等は自信を持つようになり、更に**生きる力**を自ら育んでいくようになるであろう。当然**人生の意味、意義**についても関心を持ってくるようになる。

また**自然と共存する**優れた日本の**伝統文化、技術、思想**を、様々なレベルで全世界に向け発信していく事は人類にとって今や大切である。そのことが真の国際化にもつながる。同時に、世界各国の**自然と共存する優れた文化**を、取り入れることも忘れてはならない。
個人レベルで国際交流する場合でも、日本人として独自の明確なアイデンティティを持っているほうが理解されやすいし交流も深まることだろう。

４．未来に向け目指すべき、唯一の社会的ビジョン――**未来社会像**――は何か。

地球を取り巻く環境が悪化の一途をたどり、なおも人類が**資源・環境を食いつぶしながら**滅亡のふちへ確実に進んでいる現在、その解決のためには、社会も国も個人も、「**持続可能な社会**の実現」――これをビジョンとして目指す以外にない。

「**持続可能**」――は自然環境はもとより経済、文化､科学、産業、国際関係から人間関係についてまで、あらゆる面でそうでなければならないのはいうまでもない。これを**社会ビジョン**として明確に掲げ、人々に共通認識として広めると共にこれが、**何にもまして重要**であるとして、**価値観の変換**を図らなければならない。そして人々の**ライフスタイルや産業形態**が、**環境に対し負荷のより少ない**ものに変わっていく必要がある。**都市の構造**も同様である。（**環境指標**の高い建築や都市は資産価値が高いという評価がある。）その一方、**科学、文化、技術**の粋を結集し、更に新しい知恵をつかって、ビジョンを現実のもとすることも大きな課題である。**科学や産業**がもっと環境について目を向けなければならない。

５．子育て教育の目標、方針――を明確にする。

社会的ビジョン、未来社会像が明確になると、それを担う事となる次世代に対する人間像、彼等に対する教育子育て方針もおのずと明らかな物となってくる。すなわち､「**持続可能社会の実現**」この社会的ビジョンのため貢献できる人間、「**持続可能社会**」を目指し、担える人間をいかに育てるかが、これからの**次世代育成のテーマ**であり**目標**であると明確に位置づけしなければならない。

６．次世代に対する子育て教育の**具体的方法**――は何か。

現状の地球環境にまつわる深刻な状態を正確に認識させるためにも、子供等に対し**環境教育、自然体験教育、平和教育、エコロジー教育、リサイクル教育等**をもっと**実体験**をともなった形で、家庭や学校教育のみならず**社会教育**、さらに**身近な地域**においても行われる必要がある。そこで大切なことは、それを教育だけにとどまらせず、常にみずから考えさせ、実践させて体験的に実感させる――事である。自分の行動の結果、社会が変化していったこと――を確認することも重要である。それにより社会作りに参加している意識が自然に芽ばえてくる。さらに子供のうちから**地域社会づくりの立案、プランニング**に参加させることも必要である。地域の色々な世代の人々と活動を通じ交流することにより、**地域社会に対する帰属意識**がめばえ、同時に地域の伝統文化、歴史を知りそれを伝承することもできる。さらに自分が将来、社会を担っていくのだ――と言う自覚が自然にめばえ、真剣に社会の将来について考えるようになる事だろう。

７．**伝統文化、技術**についての、教育や伝承――の意義,目的は。

前にも述べたように日本の**伝統文化、技術、思想、制度**の中には**自然と共存する**優れたものが多いい。したがってそれらについて正しく学ぶことは、現在開発されている国内外の**エコロジー技術、リサイクル技術**等を学ぶことにおとらず、**持続可能社会実現**のための方法として、おおいに役に立つことである。日本人は、**未来社会に通用するような伝統文化**――を受け継いでいることを再評価し、もっと誇るべきであり、それらを日本人のアイデンティティと確認すべきである。それらについて**家庭、学校教育、社会教育、地域社会**において、興味を持たせて正しく伝承するプログラムづくりが必要である。子供等はそれらを知識だけとしてではなく**実体験**を通して身に付けることが重要で、それらの**原体験の積重ね**――が人間形成に大いに役立つ。

四　問題抽出

目指すべき姿に向けて、克服すべき問題点は。

１．「**持続可能社会**の実現」――と言う社会的ビジョンが抽象的で捉らえにくく人々にとって具体的イメージを描きにくい。

（具体的モデルを設定する必要がある。）

２．現在の大人は言うに及ばず子供達は、画一的で強力な**管理社会（学校）**にどっぷり浸っている為、自由な発想、思考を持ちにくく、価値観等が画一的なものになり勝ちである。未来にむけて**新しい発想、アイデア、価値観**を持とうとしない。

（学校以外の**団体、地域社会**などに子供自身がかかわることが必要）

３．テレビその他のマスメディアを通じて、**商業主義的**な情報の影響を強く受ける事により、**経済至上主義的価値観**――を持ちすぎている。**精神的豊かさ、伝統文化、持続可能社会**――などと言う事にあまり関心を示さない。

（**実体験**や**豊富な人間関係**を持つことにより、他の価値観の存在を認識させる。堀江モンにあこ

がれるような子供にしない。**ユビキタス（何処でも誰でも何時でも）コミュニケーションネットワーク**により**情報格差**をなくし、公平なメディアから情報を得られるようにする。）

４．子供達が**バーチャルリアリティー**づけになり、**読書体験や「仲間との外遊び」**――をしなくなった。バーチャルリアリティの刺激の強さにより現実世界を**退屈なもの**としか捉えていない。現実社会や他の人間との関わり――を避けたがる。当然積極的に社会参加しない。

（ゲーム要素のある魅力的な自然体験プログラム、実体験プログラムを子供達に提供し、**現実体験のおもしろさ、人とのかかわりの意義**などを分からせていく。読書体験により広くて深い思考を促す。）

５．**地域社会**と子供の接点が無く、学校以外に「**子供の居場所**」――が無い。

（地域社会と子供がかかわる仕組みを作り、**地域社会の教育力**を高め**子供の居場所**を地域社会の中に作る）

６．現在 NPO などの団体で、「子供のための**自然体験活動**」やその他の活動を行っているが、必ずしも近隣で行われておらず、子供自身の自由意思や力だけでそれらに参加することが困難である。保護者の意識の度合いにより参加の機会が左右される。すべての子供に機会があるわけではない。

（子供が自分だけで自由に動きまわれる**近隣地域内**に、こどもに対しそれらを**コーディネイトする機関**が必要である。ヨーロッパの地域スポーツクラブのようなもの　）

７．**地域社会のコミミュニケーション**が自然な形で形成され、豊に発展していく**仕組みや場所**が、現在の地域社会内に無い。人々の間で**地域帰属意識**が育たない。地域活動、行事等が盛んに出来ない。
（古いヨーロッパの町の、「**広場**」のような、人々が集うことのでき自然にコミュニケーションが生まれる場所が、地域社会に是非必要である。）

五　解決策

趣旨

１．社会の価値観を変え、より良い社会にむけていくために、ごく狭い地縁的コミュニティーを強化していくと同時に、インターネットを道具に使い、人や組織を有機的につないで、コミュニティーを拡大していこうという方法論。

２．子供を、社会づくり活動の主役に据、体験を通して、地縁的社会で教育したり、e―ラーニングで教育したりする。（成功例　ドイツフライブルグ、環境首都宣言）

３．社会主義が崩壊し、資本主義もほころびが見え、日本社会が目指すモデルが何処にもない。しかし考えてみると、高い文化を維持し、リサイクル・エコロジー都市であった江戸が身近にある。「江戸」はリソースパフォーマンス（資源を如何に有効につかっているか）的に、（他に類を見ないほど）かなり最適化した都市と言える。（ほとんど太陽エネルギーしかつかわず

高い文化を維持していた。）それからヒントを得我々は未来を切り開くしかない。

４．国も進めているユビキタスネット社会を（目的ではない）、実現しながら（それを道具として）持続可能社会に向け一気に社会を転換していく。

具体的解決策

１．目指すべき「持続可能社会」の具体的イメージ掲げ、基本コンセプトをつくる。　「（仮）新江戸環境国際都市」構想

目指す「持続可能社会」の具体的イメージ作りのため、高い文化水準を維持しながらも、完全リサイクルのエコロジー都市であった「江戸社会・都市」――をモチーフとし、「新江戸環境国際都市作り」――を基本コンセプトとして掲げ色々な活動展開の基準にする。新宿基本構想にも明確に盛り込む。（成功例　ドイツフライブルグ　環境首都宣言）

イ）「新江戸環境国際都市」の意味

都市の中の、日本古来の美くしい景観や自然・建築・様式・町並みを保存、再生、リファインしその中で、人々が、自然と共存する日本の伝統文化、技術、習慣などから多くのヒントを得て、地球の環境に対し低負荷型生活を送り、同時に低負荷型産業構造を構築し、物質的豊かさでなく、精神的豊かさに比重を置いた生活を送るような社会を作っていく。さらにそれを広く国際社会に提案し世界が持続可能社会に変革していくことに貢献する。

ロ）メリット／効果

（１）　割合いに高い文化水準を維持し、人々がそれなりに平和で楽しく生き生きと暮らし、文化や芸能や、今よりも美しい江戸の町を謳歌していたという、江戸の「文化や都市」を再評価することにより、そこから多くのヒントを得て持続可能社会実現の方向性を具体的イメージとして見出すことができる。人々に対し、将来ビジョンが分かり易くなり、説得力が増し共感や賛同を得やすい。又人々が個人的に活動する場合の指標となる。

（２）上記のコンセプトで色々な都市整備を行っていくと都市に日本独自の雰囲気と日本古来の美しい景観が再生し、国際的にもアピールし評価が上がる。外国人の目からも都市が魅力的なものになる。都市住民としてのアイデンティティが生まれ住民意識も高まる。新宿区基本構想、グランドデザインで述べている、「住む事に誇りを持てる町」「歴史文化が身近に感じられる町」「歩きたくなる町」となる。

２．持続可能社会達成のための組織、仕組みを作る。（　新江戸環境国際都市づくり実行委員会　）

上記の社会ビジョンを、都市住民に広め、活動を展開するための、組織や仕組み――、を近隣地域ごとに作り（新江戸環境国際都市づくり――実行委員会）、子供から高齢者まで、世代を越えて活動に参加する。また子供達を交えて地域作りの具体的計画などの立案を行う。（イメージ：　ボーイスカウトに大人が加わった様な組織）

（メリット）　子供達に**地域帰属意識**――が芽生え、自ら地域社会を担っていく自覚がわく。**地域内の連帯**が強まる。地域の伝統､習慣などが子供に伝承される。

３．近隣地域の公園（ポケットパーク）を整備、利用して「地域交流」と、「地域づくり活動」の拠点をつくる。　公園の「茶屋」作り。

地域社会内のコミュニケーションや交流が生まれ、自然に豊になっていくための「**場**」――を地域内に設定する。地域内の各「**公園**」を有効利用しヨーロッパの［**広場**］的な機能を持ったものに変えていく。

イ）　各公園内に**江戸時代**の「**茶屋**」のような物（約３坪、**江戸風デザイン**､伝統工法の建物）を作り**江戸時代の雰囲気**――をかもし出すと共に、**日本茶、お団子、饅頭、和菓子**など**伝統的で安全**なものを販売、提供する。

ロ）　運営は地域ごとの「**新江戸環境国際都市づくり実行委員会**」で行う。

ハ）　実行委員会は「**茶屋**」の運営を行いながら、**イベントリーダー、コミュニケーションリーダー**として、色々な活動の企画を行い、近隣地域の人々や子供達に対し､情報の提供や、実際のイベント､街づくりの活動を行う。更に各**公園の管理、景観整備計画**なども行うようにする。

ニ）　メリット、効果

１．今まであまり有効に利用されなかった地域の**公園**が、「**茶屋**」ができる事により**温かみ**が生まれ、人が何気なく「**たまれる**」場所となり、顔見知りが増え自然にコミュニケーションや交流が生まれる。

２．人対人の**血の通った情報伝達**がおこなわれ、「**地域住民意識**」が高まり、地域行事への参加も活発となり､**地域の支え合い**や**災害時の助け合い**も期待できるようになる

３．各公園に人がいることにより公園で遊ぶ地域の子供にも常に目が行きとどき、危険防止に役に立つ。また「**就学前の子供達の居場所**」として各近隣公園が機能することになる。

４．近隣地域の各公園ごとのイベントや活動が可能になり、親に連れられなくても子供達だけの自由意思だけで気軽に参加できる。

５．「**日本の昔からの美しい景観**」が各地域社会の中に比較的簡単に再現でき、町に雰囲気が生まれる。「**住む事に誇りを持てる町**」になる。常に心がこもった管理が行われるので公園の景観が乱れない。地域内の各個人の「**景観整備**」が触発される。外国人にとっても地域が魅力的なものになる。

６．街づくりのデザインコンセプトの基準が示され、**景観に統一性**ができる。

７．NPO や各種団体が行う、いろいろな子供のための行事の情報が直接子供に届くよう

になる。行政による情報も同様である。

８．多数の地域がネットワーク化することにより様々な情報が一元化する

９．ヒューマンスケールで**都市のアメニティー、コミュニティー**が形成される。

４．日本の伝統文化、技術、芸能、遊び――を教える「塾」をつくる。

イ）　伝統文化、伝統技術、芸能、芸術、武道、伝統の遊び、などを子供達が気軽に習え、伝承していくきっかけ作りとなる「塾」を各地域ごとに作る。同時に**塾**は**「町の縁側」**――的な機能を持たす。**町の縁側**とは「少子高齢時代の**コミュニティー創造の場**」として内と外の境界が解けた、安心とくつろぎ、多様な他者との出会いと交流のある居場所――である。（例　名古屋ＮＰＯ　町の縁側とりくみ隊、遠藤安弘代表）

（メリット）
１．近隣地域にそのような物があれば子供が時間を持て余すことなく手軽に参加できる。「**居場所**」が出来る。２．それを通して家庭、学校以外の場所でも子供を教育することができる（**地域の教育力向上**が図れる）３．日本の文化、精神に触れることにより、子供達が**日本人としてのアイデンティティ**を持つための手助けになる。

ロ）　**指導者、師匠**は人材ネットなどでできるだけ地域内の人の中から募集する。（地域住民の社会参加が促進される。）（江戸時代は暇な武士が塾を開き就学率は 80%であった。）

ハ）　各種「**塾**」「**町の縁側**」は街づくり実行委員会がコーディネイトする。

ニ）　学校教育の**総合学習**とも連携をはかったり、**シルバーマイスター制度**とも関係付ける。

５．「新江戸環境国際都市つくり」をコンピューター上でシミュレーションする。ユビキタスシームレスコムニケーションプラットフォーム(何処でも誰でも何時でも、可能なネットワーク)を構築し、街づくり活動のデーターベースをつくるとともに、情報格差を無くし、既成メディアによらないコミュニケーションの活性化を図る。

イ）　**持続可能社会作り――新江戸環境国際都市作り――**というものは短期間で達成できる物ではなく、１０年～５０年、更にもっと長い時を掛け受け継がれて達成していく物であるので、簡単にはその成果が確認できない。そのため人々の興味や関心が薄れる結果にもなりかねない。それを避けるため、自分達の現在の活動が、将来どのような街づくりの成果として現れるのか――をイメージできる様、**コンピューターによりシミュレーション**する。それにより**バーチャル**な方法で将来の街づくりが体験できると共に、将来の都市の姿が容易にイメージ出来るようになる。の**リアル**な街づくり活動と**バーチャル**な街づくりとを常に**フィードバック**させながら、子供達にも、街づくりに対し関心と興味を持たせるとともに、**リアル**な活動の強化を図る。

ロ）　数多くの地域の活動やプランを、コンピューターで**データーベース**化して管理し、情報の共有化を図るとともに計画立案の効率化を図る。

ハ）　**街づくり実行委員**のメンバーを**インターネット上**でネットワーク化し、コミュニケーショ

ンの可能性を広げるとともに、専門化のアドバイスなどを受けやすいようにし、情報格差をなくす。ｅ―ラーニングにより様々な教育を行う。又ユビキタスコミュニケーションネットワークにより、メンバーのライフスタイルの中に、街づくりの活動が組み込み易いようにする。データーの集積により街づくりのシンクタンクが出来て、ナレッジマネージメントが可能になる。(総務省U―ジャパン構想に適合)

(既存のユビキタスネットワークツールと既存のインフラを使用するため低コストで実現。)

六　プロセスデザイン

１．プロジェクト達成のためのプロデュース組織作り

持続可能社会の理念、新江戸環境国際都市づくりプロジェクトを広めたり、
その具体的プランを練ったり、また地域街づくり実行委員会の設立や運営の支援を行う組織を、NPO などの形で組織する。(仮)(新江戸環境国際都市―協会)

２.「同協会」は行政、学者、専門家、他の活動組織の協力をえて、街づくりのシンクタンクとして、活動プランや行動基準等を作成する。又、ユビキタスシームレスコミュニケーションプラットフォームを構築する。(既成のユビキタスナレッジマネージメントツールを使用する。例米国ＦＥＩＳ・ＩＮＣ社製ナレッジノーツ等)

３．区内の１～2 地域をモデル地域に設定し「新江戸環境国際都市」づくり「実行委員会」を組織する。

４．その地域内の公園にて「茶屋」の建設に取り掛かる。

イ）建設費を補助金､助成金などで調達する。(「皆で観考える身近な公園整備」制度等

ロ）建物の基準、仕様、の決定、設計は「新江戸環境国際都市協会」で行いコンセプトにあった統一的なものとする。

ハ) 建設は主に専門家が行うが近隣住民も協力し、伝統建築工法の講習会の形で行っていく。環境整備は常に住民参加型で行い、住民の参加意識を高める。

５．最初、テストケースは、地域の「実行委員会」と「協会」が協力して「茶屋」の運営、公園での活動､イベントを行う。「塾」の開設,運営も同様に行う。「塾」は「町の縁側」にふさわしい場所を設定する。

イ）「茶屋」の基本的な運営基準は協会で決めるが実際の運営に関しては地域の実行委員会で協議する。

ロ）公園でのイベントや活動は「茶屋」を拠点に地域の「実行委員会」が行うがプログラムの提供、講師、インストラクターの派遣等は「協会」が行う。

６．テストケースで色々な**ノウハウや各基準**を確立し、それを基に、その他の地域に広げていく。将来的には新宿区のみならず東京都全域で展開する。

７．協会でコンピューターによる**バーチャル都市づくりシステム**――を構築し、街づくりを**シミュレーション**する。

８．**ユビキタスシームレス（何処でも誰でも何時でも可能な、情報障壁のない）コミュニケーションネットワークにより、各地域の実行委員会及び会員個人をネットワーク化し、既成情報メディアに依らない公正なコミュニケーショ**
ンを活性化する。「ユビキタスネットワーク社会の実現を目指す。（既成の**ユビキタスコミュニケーションツールを**使用するため**低コスト**である。）」

９．数箇所の地域の実行委員会が集まって、更に大きい委員会を組織し、地域委員会では出来ない活動を行う。

１０.「**持続可能社会作り**」の一般化した**方法論を確立し**、プロジェクトを日本全国に広げていく。

（注）目指す**「持続可能社会」「ユビキタスネットワーク社会」**を一言でいうと――

> **江戸の町**に**スーパーコンピューター**を設置し、人々は、**エネルギー環境を食いつぶす**ことなく、**清貧**な生活をしながらも、街角、街角に設置したコンピューター端末を自在に操り、コミュニケーションを豊かに展開し、**精神的豊かさ**を謳歌している**都市**――である。

引用・参考文献

「江戸空間」100 万都市の原景　石川英輔著　評論社
「自然の終焉」環境破壊の現在と未来ビル　マッキベン著、鈴木主税＝訳　河出書房新社
「森と分明」安田喜憲（著）
「梅干と日本刀」樋口清之（著）祥伝社